

# 香川用水誕生秘話



かがやくけん、かがわけん。

香川県



# 「香川用水誕生秘話」発行に当たって

香川県知事

浜田 恵造



香川県は、古くから降水量が少なく、慢性的な水不足に悩まされてきました。こうした状況の打開に向けた「吉野川の水を讃岐の地へ」という香川県民の長年の悲願は、早明浦ダム建設を中核とする吉野川総合開発事業に伴う、昭和四十三年十月に着工された香川用水事業により実現されました。

香川用水は、高知県の早明浦ダムに貯水された水の一部を、徳島県の池田ダムによりせき止め、阿讃山脈を貫く八キロメートルの導水トンネルで旧財田町まで導き、ここから更に東西に延びる九十八キロメートルの幹線水路によって県内に導水されたものです。昭和四十九年に吉野川の水が初めて県内の各家庭へ配水されて以来、四十年以上の歳月が経過する中、これまでに七十四億トンを超える導水量により、県民生活の向上はもとより、経済・産業の発展に大きく寄与し、その恩恵は計り知れません。「四国はひとつ」の心で送られてくる香川用水は、まさに「友情の水」であり、水源地域の皆様の温かいご理解とご協力の賜物です。

折しも本年は、「香川用水記念会館」の移転整備に併せて、香川用水事業の背景や意義など、本県特有の

水利用に関する歴史を紹介していた「香川用水資料館」もリニューアルして、改めて香川用水の歴史を後世に伝承し、その恩恵や水源地域への感謝と水の大切さを広く県民の皆様に普及・啓発することとしています。

そこで、リニューアルを契機に、香川県が水に苦しんだ歴史や吉野川総合開発計画に至るまでの苦労、香川用水の通水による恩恵等について、平成二十八年四月から、香川県広報誌「みんなの県政T H E がわ」において、十二回にわたり「香川用水誕生秘話」と題して、「四国作家」同人 平井忠志氏に執筆いただき、記事を連載しました。

本冊子は、この連載十二話をまとめたもので、香川用水の建設に関わった先人たちの努力や苦労、香川用水の通水による恩恵を再認識していただくとともに、高知県・徳島県の水源地域をはじめ、両県民の皆様への感謝の気持ちを持たせていただければ幸いです。

県では、今後とも、渇水に強い香川の実現に向けて、安定した水資源を確保し、将来にわたり安心して暮らせる「信頼・安心の香川」を目指してまいりますので、県民の皆様には、より一層の水の有効利用や節水に取り組んでいただきますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

# 「香川用水誕生秘話」発行に寄せて

吉野川総合開発  
香川用水事業推進協議会  
会長 組橋 啓輔



この度、香川用水事業の歴史や意義と恩恵、さらには高知・徳島両県の皆様への感謝を表した「香川用水誕生秘話」が発行されます。心からお慶びいたします。

近年、異常気象よりゲリラ豪雨や少雨が頻発する傾向が顕著となっており、香川用水が通水された昭和五十年から平成二十八年までの四十二年間で二十九回もの渇水により取水制限が行われ、その頻度は三年に二回の割合となつていくところであります。

こうした中にあつても、香川用水の恩恵と県民の皆様の水融通や水利慣行へのご理解とご協力の賜物により、深刻な水不足に至つておらず、今日の各種産業の振興と安全・安心な県民生活が営まれているところであります。水資源に恵まれない本県に新たな水資源として建設された香川用水も、通水から四十年以上が経過する中、先人達の水を求めた歴史が忘れられ、「香川用水のありがたさ」や「節水への意識」、さらには高知・徳島両県への「感謝の気持ち」などが年々薄れてきているのではないかと危惧しております。

このような中、県において、香川用水の大切さを再認識するため、平成二十八年四月からの一年間、県広報誌「みんなの県政TJEかがわ」に、「香川用水誕生秘話」と題した記事を連載していただき、さらに、この度、冊子にして発行していただくことは、大変有意義であると感謝とお礼を申し上げます。この冊子により、本県の「いのちの水」である香川用水の恩恵を再認識していただくとともに、香川用水の完成により抜本的に水事情が解消されたことと、水源地域の高知県や吉野川がある徳島県の皆様方への「感謝の気持ち」を、いま一度思い起こしていただければ幸いです。

また、今年には新たな香川用水記念会館が開館することとなつており、館内の「香川用水資料館」の利用を通じて、広く県民の皆様が香川用水や本県特有の水の歴史と、高知・徳島両県の皆様方への「感謝の気持ち」を発信できるものと期待しております。

最後に、本協議会として、今後とも香川用水関連事業の円滑な推進と適切な管理・運営を図つてまいりますとともに、関係の皆様方のご健勝、ご活躍をお祈りして、発行に寄せての言葉といたします。

目次

第一話	水に泣かされた讃岐	4
第二話	複雑な水利慣行	5
第三話	明治の香川用水構想	6
第四話	吉野川総合開発の構想	7
第五話	徳島の県民感情	8
第六話	早明浦ダム計画が浮上	9
第七話	香川用水幹線水路のルート選定	10
第八話	香川用水土地改良区の設立	11
第九話	阿讃貫く導水トンネル	12
第十話	高松砂漠一足遅い香川用水	13
第十一話	平成六年渇水と宝山湖の建設	14
第十二話	香川用水の維持管理	15
香川用水事業の主要経過		16
執筆者からのメッセージ		17

みず な さぬ き  
水に泣かされた讃岐

「四国作家」同人 平井 忠志



雨乞い祈願

讃岐は昔から水に恵まれず、わずかの日照りにも、農家は干ばつの被害に、泣かされてきました。

平安の昔、讃岐の国司(知事)を務めていた菅原道真は、干ばつのたびに神社・仏閣に雨乞いの祈りを命じましたが、一向に効き目が無かったといえます。

ついに道真は意を決し、自ら城山の神に雨を祈ることにしました。このとき道真がしたためた「城山の神を祭る文」が、『菅家文草』に残されています。

これによると道真は、わが意を入れて雨をたまわば、供物を山と積んで神をたたえましょうと利を約し、もし人の望みに従わないときは「礼祭あるいはおろそかならんと、アメとムチをちらつかせて、神を脅迫しています。」



たきのみや ねん ぶつ おどり  
滝宮念仏踊

綾川町の滝宮神社、滝宮天満宮で奉納される滝宮念仏踊は、雨乞いと五穀豊穡を願う神事であり、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

讃岐の国司を務めていた菅原道真の赴任中に大干ばつが起こりましたが、道真公自ら坂出市の城山で七日七夜祈り続け、その後、三日三晩大雨が降り続けました。農民たちは道真公に感謝を表し、大喜びで唄い踊ったのが起源とされています。

平井 忠志

1927年香川県生まれ。愛媛農林専門学校卒業。元香川県農林部開発水利課長・土地改良課長など歴任。1995年第30回香川菊池寛賞受賞。主な著書は「さぬき水物語」、「讃岐のため池誌」(共著)、「近世の讃岐」(共著)。

焼け石に水

そんな道真も最後には「南郡の干災あずかるころ無し」(私の治める南海の讃岐の国の干ばつは、手の施しようがない)と嘆いています。また江戸時代のはじめ幕府の隠密が讃岐に入り、干ばつの爪あとをつぶさに記録した『讃岐探索書』によると「寛永三年の物成りごとごとく日に焼け…(中略)一村にて五人、六人ずつ見る見る、餓へ死に…」と、その悲惨なありさまを記しています。

江戸時代のはじめ、寛永二十年の夏も大日照りが続きます

した。このとき高松藩主松平頼重(水戸光圀の兄)は、参勤交代で江戸にいました。その年の夏、讃岐に帰国した藩主頼重は、あまりの干ばつのひどさに驚きました。

藩主頼重は、直ちに家臣に命じて領内をくまなく調査させ、わずか一、二年の間に大小四百六カ所のため池を築かせ、幕府から賞賛されました。ため池の新設や増築は、その後も絶え間なく続けられました。だが、しよせん焼け石に水で、干ばつは明治、大正、昭和と繰り返され讃岐の住民を泣かせました。



ふく ぎつ すい り かん こう  
複雑な水利慣行



「四国作家」同人 平井 忠志

各地で水利紛争

水に乏しい香川県には、昔から複雑な水利慣行がありました。水利慣行とは、限られた水を利用するためのしきたりです。

例えば、川から水を導水するときは、その期間や取水量、川に設置する井関の構造など、細かいしきたりがあります。

香川用水ができるまでは、この水利慣行のせひをめぐって、水利相互間の水争いが絶えませんでした。

観音寺市では明治時代に、川の井関をめぐって、栗井村と新田村が争い、ついには大審院（現最高裁判所）まで持ち込まれました。

また木田郡三木町でも明治の初年、吉田川の井関をめぐって氷上村と田中村が大審院まで争いました。（※）

高松市新田町でも、桑池の

配水慣行をめぐる紛争が、明治初年に大審院まで持ち込まれました。

また土器川沿岸では、昭和時代に水利紛争で両岸の村が対峙し、これを制止する警官隊を巻き込んで、血の雨を降らす騒ぎを起こしています。

ほかに小さな紛争は、県下各地で、枚挙にいとまがないほど起きています。

線香水と香水

水利紛争を防ぐため、水田の水の使用にも、厳しい水利慣行がありました。水田ごとに、「水フニ」と称する用水量の権利があります。この権利を線香の長さに換算します。

その線香が燃え尽きるまで、自分の水田に水を入れ、終わると世話役が太鼓で合図して次の人に引き継ぎます。これを「線香水」といいます。

また「香水」というのもあ

ります。長方形の箱の中にワラ灰を敷き詰め、抹香を線状に敷いておきます。各人の水の持ち分を長さに換算して、抹香の線の上に印をつけ、自分の香が燃え尽きると、次の人に引き継ぎます。（※）

後年、線香や抹香が時計に代わってからも、時計は文字盤の側だけガラスの入った箱に入れ、扉に鍵をかけ厳重に管理していました。

（※）香川用水記念会館に資料や現物が展示されています。





めいじ か がわ よう すい こう そう  
明治の香川用水構想

「四国作家」同人 平井 忠志

大久保謙之丞の夢

「吉野川の水を讃岐へ」そんな構想に、早くから思いをはせていた一人の男がいました。「四国新道」(丸亀―池田―高知―松山を結ぶV字道路)の建設に情熱を燃やし、家財を傾けた大久保謙之丞です。

彼は讃岐と阿波の県境、財田村(三豊市財田町)の素封家に生まれました。彼は阿波の池田と琴平を結ぶ険阻な猪ノ鼻峠越えに、多くの人が難儀しているのを見て、かねてから猪ノ鼻トンネルの開削構想を練っていました。

そのトンネルの水抜き側溝に吉野川の水を流し、讃岐に導水する計画を立てたのです。時に明治十八年、彼は三十六歳の男盛りでした。

彼は吉野川本流からの取水が、不可能に近いことをよく知っていました。当時はコン

クリートが発明されて間がななく、ましてやダム築造など考えられない時代でした。

そこで彼が着目したのは、吉野川の支流銅山川(伊予川)でした。これならダムでせき上げなくても、上流にさかのぼれば、十分な標高差が得られます。彼はそこから開削予定の猪ノ鼻トンネルまで、導水路で導こうと考えたのです。



大久保謙之丞の銅像 (琴平公園)

「笑わしやんすな百年先は 財田の山から川舟出して 月の世界へ往来する」と雄大に将来を歌った大久保謙之丞。百年先を見通した先見の明と構想の偉大さには目を見張るものがある。

愛媛県庁に申請

明治十八年、彼はこの計画を愛媛県庁(当時、讃岐は愛

媛県に併合)の湯川大書記官(知事代理)に願ひ出ました。このときの上申書の案文が残っています。

「若シ成シ得ベクンバ、トンネル湿抜溝(水抜きの側溝)ヲ利用シ…(中略)…綾歌仲多度、三豊、三郡二灌漑用水ヲ供給スル見込ナリ」とあります。

この構想は、残念ながら不発に終わりました。大久保謙之丞の「香川用水計画」は、香川県の独立(明治二十二年)を機に、明治二十三年に愛媛県から香川県に伝達されましたが、再びお蔵入りになりました。次に姿を現すのは明治三十八年です。この年、県は京都帝国大学の上野有芳助教授に、吉野川分水計画の実地測量を委託しました。

残念なことに、その資料は何も残っていません。高松大空襲で、焼け失せたのかもしれません。

よしの がわそうごう かい はつ こうそう  
吉野川総合開発の構想

「四国作家」同人 平井 忠志

## 国破れて山河あり

昭和二十年、日本は戦争に敗れ、四国四県の県都はすべて焦土と化しました。ただ一つ四国に残されたのは、年間五十億トンともいわれる豊かな吉野川の流れだけでした。

そこで計画されたのが、水力発電です。昭和二十三年、経済安定本部(現内閣府)は、発電・治水・利水を組み合わせさせた吉野川総合開発の構想を打ち出しました。さらに昭和二十六年には、「四国地方総合開発審議会」が設置されました。これを機に建設省・農林省・通商産業省・電力会社などが、それぞれの立場で計画を策定し、開発計画花盛りの時代を迎えます。

あわや  
大歩危・小歩危水没

このときの総合開発計画は、吉野川の本流に早明浦、

敷岩、小歩危など、階段状に九カ所のダムを築き、計二十三万キロワットの水力発電を行うものです。

ですがこれでは、大歩危・小歩危の景勝地が水没してしまいます。この危機を救ったのは、昭和三十一年、三年ごろの神武景気でした。

電力の需要が急騰し、悠長にダムを建設していたのは、間尺に合わなくなったのです。

折からの原油安も後押しして、急きょ火力発電に方向転換されたのです。

香川用水計画の原型は、このとき農林省が打ち出したものです。

## 農林省が香川用水を計画

このとき農林省は、吉野川支流の銅山川(伊予川)に建設予定だった岩戸ダムに着目します。

岩戸ダムは貯水量二億九千

万トンというから、ざっと満濃池の十八倍のマンモスダムです。ここから約八キロの導水トンネルで、観音寺市大野原町五郷地区に導水し、幹線水路で満濃池を経由して、中讃・東讃に配水する計画でした。

だがこの計画は、徳島県民にとっては複雑な感情が絡んでいました。常日頃、吉野川の洪水に泣かされてきた徳島県民は、おいしいところだけを香川に横取りされるのが、やりきれなかったのです。



吉野川



とくしま けん みん かん じょう  
徳島の県民感情



「四国作家」同人 平井 忠志

土佐のあほう水に泣く

徳島県には昔から、「土佐のあほう水」という言葉があります。雲一つない夏の日和に、突然ごうごうと川鳴りがして、吉野川が洪水であふれるといえます。

土佐の山奥に降った豪雨が、何の予告もなく押し寄せ、田畑を押し流し、牛馬や河原で遊んでいる子供たちを、濁流にのみ込むのです。明治時代には吉野川に、堤防もありませんでした。

記録によると江戸時代の初期、万治二年から慶応二年の約二百年の間におよそ百回の洪水に見舞われています。中でも慶応二年の洪水は史上最悪で、池田町から下流の川治の平野部は、すべて泥海と化し、死傷者は三万七千人にも及んだといえます。(引用『藍より青く吉野川』編集：全国土地改良事業団体連合会)

そんな洪水に備えて沿岸の農家は、緊急避難用の小船を天井から吊り下げておくのが、精一杯でした。徳島県民にとって吉野川がもたらした恩恵といえば、淡水漁業と、舟運と、周辺のわずかなかんがい用水にすぎなかったのです。

中でも吉野川北岸の山麓の田畑は、豊かな流れの吉野川を眼下に見ながら、毎年のように干ばつの被害にあえていました。吉野川は、流況や水位の変化が激しいため、ポンプの設置が難しく、採算に合わなかったのです。

そんな悲惨な歴史をよそに、戦後の荒廃した四国の復



吉野川の洪水に備えた緊急避難用の小船

興を旗印に掲げ、他の三県が財力にまかせて吉野川の分水を計画したのです。これを受けて立つ徳島県民の感情は、複雑以上のものがあつたに違いありません。

愛媛から愛媛へ分水

徳島県が反発する中で、愛媛県は、三島・川之江地域(四国中央市)へ、吉野川支流銅山川(伊予川)からの分水を計画しました。伊予川は愛媛県内を流れています。

つまり愛媛から愛媛への分水です。これは江戸時代からの悲願でした。その後、明治から大正にかけて、何度も分水が計画されましたが、その都度、徳島の反対で挫折を繰り返しました。

最後に愛媛県は、当時、経済安定本部の公共事業課長であった大平正芳氏に訴え、GHQ(連合国軍総司令部)の仲介でやっと実現しました。

さ め う ら ふ じ ょ う  
早明浦ダム計画が浮上

「四国作家」同人 平井 忠志

四国の話し合い難航

徳島県が吉野川の分水に反発する中で、他の三県はそれぞれ分水の必要に迫られていました。

高知県は高知市とその周辺の工業・上水道用水が四千万トンほど不足していました。愛媛県は昭和の初期に、伊予川からの分水を実現していましたが、なお農業・工業・上水道用水が二億トンほど不足していたのです。香川県は農業・工業・上水道用水合わせで、二億四千万トン余りを必要としていました。

四国の話し合いは難航を極めました。昭和三十七年に政府が「新産業都市建設促進法」を公布したため、その緊張が破れました。これは全国に十力所内外の地区を指定して、新しい工業開発の中核となる地域の育成を図るものでした。

そんな中で、徳島県と愛媛県の東予地域は、指定獲得に格別の意欲を燃やしていました。しかし指定を受けるには、「豊富な工業用水」が必要でした。

徳島県にも泣き所

ところが強硬な徳島県にも、意外な泣き所がありました。吉野川の流量が不安定なため、安定した工業用水の確保ができない悩みです。

吉野川中流部(池田町)で、洪水時には毎秒一万五千トンを超える流れも、渇水期には毎秒十トンを下回る年があるのです。当然ながら安定した工業用水を確保するためには、利水ダムの建設に頼らざるを得ません。

こうして改めて「吉野川総合開発計画」が見直され、早明浦ダムの建設を中核とした利水、治水、発電計画が真剣に討議される運びとなったの



早明浦ダム (独)水資源機構 提供

です。こうして昭和四十一年の夏、四国四県は早明浦ダムの建設計画に同意し、敗戦以来二十年に及ぶ四県の葛藤に、終止符が打たれることになりました。

池田ダムの建設

香川用水にとって、池田ダムは不可欠です。早明浦ダムから放流された水は、池田ダムでせき上げられ、ここから香川県に分水されます。

ダムの高さは二十四メートルですが、川幅いっぱいを九門のローラーゲートでせき上げます。つまりダムというより長大な連続水門で、ゲートを上まで巻き上げると、元の河川になります。



# 香川用水 誕生秘話

7

## かがわ かんせん せんてい 香川用水幹線水路のルート選定

「四国作家」同人 平井 忠志



### 金毘羅トンネル

池田ダムから取水した用水は、阿讃山脈を八キロメートルのトンネルで貫き、香川に導水されます。出口に東西分水工を設け、ここから東部幹線、西部幹線により県下に配分されます。

原則として開水路で、できるだけ高位部を通過させましたが、難関は「こんぴら船々」で歌われる象頭山でした。こんぴらさんの御本宮と奥社の中間の真下を、トンネルで通過しなければなりません。

象頭山の社叢はご神体山であり、国の天然記念物に指定されています。しかもトンネルの出口付近では、原生林を伐採しなければなりません。こんぴらさんの補償交渉は、頭の痛い問題でした。

覚悟を決めて、県の香川水課長と水資源開発公団の建設事業所長が、琴陵宮司に

トップ会談を申し入れました。どんな難題を持ち出されるかと気をもんでいたところ、さすがは天下のこんぴらさん。

「ご苦労さまです。県民の皆さまが恩恵を受けるのですから、こんぴらさんも本望でしょう。補償は一文もいりません」と、終始にこにこされながらの会談でした。

これは余談ですが、このトンネルを掘ったとき、こんぴらさんの直下で突然大量の水が噴出しました。原生林で何千年も蓄えられてきた、ご神水です。今もトンネルの側面（涙孔）から、絶え間なく流れ出ています。

一方、金刀比羅宮には水道がなく、谷間の清水を引いて大切に使っていました。そこで水資源開発公団では、トンネル内に流れ出るご神水の一部を、ポンプで御本宮までお

返しているそうです。

### 宗延峠へポンプアップ

東部幹線水路の自然流下は、津田川までです。当初計画では、ここが香川用水の終点でした。「ぜひ東部三町にも香川用水を」という強い要望があり、田辺揚水機場（旧大川町）に四台のポンプを設置して、標高百三十メートルの宗延峠を越え、終点の宮奥池（旧白鳥町）までパイプで送水しました。



金毘羅トンネル出口



かがわ かいりょう せつりつ  
香川用水土地改良区の設立

「四国作家」同人 平井 忠志

受益農家の同意署名

香川用水事業の実施のため、香川用水土地改良区を設立することになりました。そのためには土地改良法に基づき、受益農家の三分の二以上の同意署名が必要です。

このため推進母体として、昭和四十一年に「香川用水事業建設期成会」が設立され、県を挙げての推進体制を整えました。

さらに県期成会の下部組織として市町村ごとに建設期成会を結成し、受益農家の同意署名を進めました。

受益農家の範囲は、香川用水の恩恵を受ける区域を例外なく包括することにしました。このため個々の農家の反応が強く、「負担金がかかるなら、香川用水は要らない」という地域も多く、同意署名は困難を極めました。

無理ありません。県下に

は一万余のため池があり、池のすぐ下の農地は昔から用水に不自由したことが無いからです。

でも考えてみると、それは不公平です。みんなが公平に利用すべき用水を、地の利をいいことに今まで優先取水していたのです。

香川用水を機に、この悪弊を排除しなければなりません。

県の担当職員は、用水の公平利用の必要性を説きながら、昼夜を分かたず、夜討ち朝がけで、延べ何百回という説明会に駆け回りました。

私も当時、県職員の一人として説明会に回りましたが、それは厳しい毎日でした。夜間の移動中に大雪に降られたこともありました。善通寺市から県庁に帰る途中、雪のため滝宮で車が動かなくなり、寒さに震えながらスコップで雪を掘り、車を押したことが、

今も鮮明に思い浮かびます。

日本一マンモス土地改良区

こうした努力が実を結び、受益農家六万人の八十六パーセントの同意署名を取り付け、昭和四十三年八月、日本一の規模を誇るマンモス土地改良区が誕生しました。

また土地改良区の設立と並行して進めていた、国営事業と水資源開発公団営事業の実施手続きも同時に完了させ、明治元年から満百年に当たる節目の年に香川用水事業の着工が実現しました。



香川用水土地改良区第1回総代会 宮脇初代理事長  
出典：香川用水土地改良区30年史



# 香川用水 誕生秘話

9

## あさんつらぬ どうすい 阿讃貫く導水トンネル

「四国作家」同人 平井 忠志

### 新鋭機トンネルマシン

県境を貫く導水トンネルは、徳島と香川の双方から掘り進めました。徳島側からの掘削は、前面にドリルで削孔し、ダイナマイトで爆破する、いわゆる発破工法を用いました。

一方、香川側からの掘削は、新鋭機のトンネルマシンを使用しました。早くいえば、機関車の頭部に直径四メートル十センチの円盤を取り付け、これに三十二個の特殊鋼製のカッターを取り付けたものです。この円盤を回転させながら、岩盤を押し砕いて掘り進みます。掘った岩石はバケットですくい上げ、七面編成のディーゼル機関車で坑外に運びます。

### マシンの運搬は大名行列

トンネルマシンは、一台二

億円、全長十六メートル、重さ百四十トンで、大阪から搬入しました。運搬には全国からかき集めた重トラレーラトラック四台、普通トラック八台、計十二台のまさに大名行列です。運賃だけで六百万円かかったといえます。

### 役目終え地底に眠る

掘削の途中、超硬岩に遭遇しました。コンクリートの十五倍という堅さのため、ベアリングが摩耗して、その取り替えに狭い坑道の中で、四苦八苦したといえます。

水路トンネルは道路トンネルと違って、勾配が命です。徳島と香川から掘進して上下に食い違つと、計画通りの水が流れません。

掘進方向と勾配の測量は、何度も念を入れませんが、貫通間近になると責任者は気が気でありません。この工区を直接担当した水資源開発公団の

中山繁郎所長は、「測量に自信はあったものの、もし万一誤っていたら・・・」と思つた、人にも言えず眠れない夜もあつたと言います。

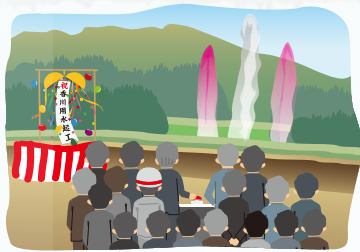
トンネルの掘削が終わったとき、地底の勇者トンネルマシンの運命が決まりました。坑外への搬出は極めて困難で、仮に解体して搬出しても、活躍する場所が無かつたのです。

「やむを得ぬ。地底で眠ってもらおう」

トンネルマシンは頭部をぐっと下げ、永眠の場所を求めて、阿讃山脈の奥深く、潜り込んで行きました。



新鋭機のトンネルマシン（香川側）  
出典：香川用水土地改良区30年史



たかまつさばく おそかがわ  
高松砂漠一足遅い香川用水

「四国作家」同人 平井 忠志

香川用水起工式

香川用水の起工式は、昭和四十三年十月二十四日、三豊市財田町で行われました。時あたかも明治百年でした。

起工スイッチのボタンが押され、高さ十数メートルの紅白三本の水柱が打ち上げられました。クス玉が割れ、五色のテープが流れました。私はその時、風船を飛ばす係でした。両手に数十個の風船の紐を握りしめておりました。

思えば感無量でした。香川用水の調査時代から二十年間やってきた仕事、やっと始まるのです。感激のあまり手がびしょより汗に濡れ、風船がばらけず、ひと塊で上がったのを覚えています。

思わぬ伏兵高松砂漠

工事は順調に進み、昭和四十八年二月には、導水トンネルが貫通し、幹線水路も綾川

まで完成しました。これで池田ダムさえ完成すれば、待望の吉野川の水が届きます。

ところが思わぬ伏兵が現れました。同年夏の大雨のおかげです。七月から八月にかけてほとんど雨が降りませんでしたが。高松市では八月から一日三時間の給水制限に踏み切りました。

高松駅ではトイレが閉鎖され、ドラム缶一本の水を一万円で買った旅館もありました。もらい風呂でトラブルが起き、殺人事件まで発生しました。

陸上自衛隊が給水活動に乗り出しましたが、給水車が足りませんでした。市は全国にSOSを発信しました。四国三県をはじめ東京、横浜、岡山などから、相次いで給水車と救援の水が寄せられました。

急ぎよ満濃池の水を、香川用水幹線水路に流し、府中

ム經由で高松の浄水池まで送水して、やっと苦境を脱出した次第です。

遅ればせながら翌年五月、幹線水路が高松まで完成したのを機に、上水道用みだけを通水することになりました。池田ダム地点に口径三十センチの水中ポンプ九台を仮設してくみ上げました。

待ちに待った池田ダムが完成したのは、高松砂漠の二年後の昭和五十年三月でした。



昭和48年自衛隊の給水支援 出典：さめきに水を拓く





早明浦ダム湖底の旧大川村役場

## 平成6年渇水と宝山湖の建設

「四国作家」同人 平井 忠志

### 香川を襲った大渇水

平成六年の夏、香川県は大渇水に見舞われました。いわゆる「平六渇水」です。明治二十五年に多度津測候所が開設されて以来、最少の降雨記録でした。

七月下旬には早明浦ダムの貯水が空っぽになり、農業用水の取水が停止される非常事態でした。水道用水だけは徳島県の好意により、ほそぼそと取水していました。

農家でも昔の厳しい節水管理の復活を余儀なくされ、水稻を枯らさないようにするのが精いっぱいでした。一方、高松市の水道用水は、一日五時間給水に追い詰められていました。

そんな中、香川用水土地改良区に対し、県知事から水道用水に農業用水を融通してもらえないか、という要望がありました。でもこれは、香川

用水土地改良区の一存では決められません。

香川用水の建設費は、水量割七割、面積割三割で負担することになっています。従って各水利団体への配水量は、建設費を負担している団体の既得権なのです。

香川用水土地改良区では、連日のように配水管理委員会を開いて、渇水対策を協議しました。

傘下の水利団体ごとの用水の過不足を細かく調べ、ため池を利用して配水の調整を行い、水道用水への融通に協力する方向で話を進めました。

### 調整池宝山湖の建設

事態は日に日に悪化しました。七月中旬には、早明浦ダムの利水容量が底を突き始めました。そこで四国地建渇水

対策本部は、急きよ農業用水の供給を全面停止し、残った発電用水を水道用水に転用す

ることとなりました。

幸い台風七号が近づき、池田ダムへの流入量が増加したため、香川用水の取水制限が三日間ほど全面解除されました。

これに伴い農業用水は、傘下のため池に貯留しました。しかし水道用水は、貯留する調整池を持たないため、みすみす取りだめのチャンスを逃す結果になりました。

県はこの苦い経験をふまえ、将来緊急時に利用できる調整池、宝山湖（貯水量三百五万トン）を建設することにしました。

宝山湖は平成十一年に着手し、同二十一年に完成しました。今も水道用水の安定供給に貢献しています。



宝山湖（香川用水調整池）  
（独）水資源機構 提供



新 香川用水記念会館（平成29年夏ごろ開館予定）

かがわようすい いじかんり  
香川用水の維持管理

「四国作家」同人 平井 忠志

有り難さを忘れる

香川用水が通水されたのは、昭和五十年です。あれから四十年余りがたちました。今では香川用水の有り難さが忘れられ、特に若い世代には、香川用水の存在が当たり前となってきました。

そんな当たり前の陰に、香川用水の維持管理に日頃努力している「香川用水土地改良区」があるのを、忘れてはなりません。

香川用水幹線水路のうち、都市用水と農業用水の共用区間は、（独）水資源機構の香川用水管理所（琴平町）が管理しています。残りの農業用水専用区間は、香川用水土地改良区（高松市）が管理しています。一言で管理と言いますが、その内容は多岐にわたります。その最たるものは施設の管理です。香川用水幹線水路には、分水地点が百八十三カ所あります。

その一つ一つに、流量計が設置されています。分水された用水は各水利団体の、ため池に貯水され、あるいは直接水田に導入されます。

灌漑期には土地改良区の職員が、地域ごとの分水要望を取りまとめ、あるいは地域ごとの分水量の調整に奔走しています。

特に早明浦ダムの貯水量が激減し、香川用水の取水量が削減された場合は、用水配分の調整に泣かされます。

香川用水は津田川までは自然流下ですが、それより以東の東かがわ市は、東部幹線揚水機場からポンプアップされます。機場の見回りも欠かせません。

非灌漑期の施設管理も欠かせません。通水を止めて、パイプラインやサイホンから漏水がないか、入念に検査します。漏水が発見されれば、この時期に修理します。

香川用水土地改良区には、大きな水管理制御パネルが設置されていて、幹線水路の主要箇所の流量が一目で分かります。

幹線水路の管理には、それ相応の維持管理費が必要です。香川用水土地改良区は、これら維持管理費の徴収も主要業務の一つです。

受益地域の土地改良区や大小の水利団体、あるいは個人宛てに令書を発行し、その徴収に努めています。

香川用水の陰の主役「香川用水土地改良区」と「（独）水資源機構」を温かく見守っていただければ幸いです。

結びに、県民の皆さまが香川用水の恩恵を再認識し、水源地域への感謝の気持ちをもち続けてほしいと思います。

（完）



香川用水記念公園（三豊市財田町）

吉野川からの水が阿讃トンネルを通り、最初に水面を見せる東西分水工周辺の公園。水の資料館（入館無料）では、香川用水の歴史などを学ぶことができます。



## 香川用水事業の主要経過

明 治	18年 1月	大久保謙之丞が内務省に吉野川導水計画を提出
	38年	県が京都帝大上野有芳助教授に、吉野川分水計画実施測量を委嘱
昭 和	25年	経済安定本部が初めて吉野川総合開発計画案を発表
	28年	国土開発計画法に基づき、吉野川水系を「調査地域」に指定
	30年	農林省が香川用水の調査に着手し、県が幹線水路コースの航空写真測量を開始
	37年 7月	四国地方開発審議会で、「早明浦ダム」建設を中核とした吉野川開発計画の検討を開始
	38年 4月	建設省が早明浦ダムの調査に着手
	39年	早明浦ダム建設計画について四国四県が原則的に同意
	40年 4月	建設省が河川総合開発事業として、早明浦ダムの建設に着手
	41年 4月	農林省が香川用水計画の取りまとめを開始
	41年 6月 2日	「香川用水事業建設期成会」を結成
	42年 4月 1日	早明浦ダム建設事業を建設省から水資源開発公団に移管
	42年 10月	農林省が香川用水の全体実施設計書に着手
	43年 2月	県内6万人受益農家の同意徴収を開始
	43年 7月 18日	水資源開発基本計画に池田ダムと香川用水を追加
	43年 8月 1日	香川用水土地改良区の設立が認可される
	43年 10月 24日	香川用水事業起工式が三豊郡財田町の東西分水工建設予定地で行われる
	44年 12月	導水トンネルの掘進式を挙行
	48年 2月 19日	導水トンネルが開通
	48年 8月	高松地域に水ききが発生、満濃池から高松市へ、幹線水路を利用して緊急送水
	48年 11月 10日	早明浦ダムの完工式を挙行
	49年 5月 30日	香川用水共用区間の通水式を、東西分水工で挙行(上水道だけ通水)
49年 8月 1日	各家庭へ香川用水の配水を開始	
50年 3月 29日	池田ダムの完工式を挙行	
50年 6月 11日	香川用水の本格通水開始(都市用水・農業用水とも)	
53年 6月 11日	全線通水開始(白鳥町～豊浜町)	
54年 6月 10日	国営香川用水幹線通水式を香東川サイホン出口で挙行	
56年 3月 31日	国営香川用水事業が完了	
59年 8月 1日	香川用水通水10周年記念式典を挙行	
60年 6月 11日	香川用水土地改良区が第1回「水口祭」を斉行	
平 成	4年 5月 30日	「香川用水事業建設期成会」を「香川用水事業推進協議会」に改称
	6年 5月 30日	香川用水通水20周年記念式典を挙行
	6年 7月	未曾有の大渇水に見舞われ、一時、早明浦ダムの利水容量がゼロになる
	9年 3月 31日	平成5年度に事業着手した国営造成土地改良施設整備事業が完了
	9年 5月 10日	「香川用水記念公園」を開園
	16年 7月 28日	取水量50億m <sup>3</sup> を達成
	16年 8月 1日	香川用水通水30周年記念式典を挙行
	17年 8月、9月	平成6年以来の大渇水となり、二度にわたり早明浦ダムの利水容量がゼロとなる
	20年 8月、9月	早明浦ダムの利水容量がゼロとなる(平成6年、平成17年に次いで三度目)
	21年 3月 31日	平成11年度に事業着手した機構営香川用水施設緊急改築事業が完了(幹線水路補修・香川用水調整池「宝山湖」)
	21年 8月 24日	取水量60億m <sup>3</sup> を達成
	26年 3月 31日	平成21年度に事業着手した国営造成土地改良施設整備事業が完了
26年 9月 3日	取水量70億m <sup>3</sup> を達成	
26年 11月 22日	香川用水通水40周年記念式典を挙行	

## 香川用水誕生秘話について

「吉野川の水を香川へ！」これは香川県民の昔からの悲願でした。明治十八年、三豊市財田町出身の大久保謙之丞は、吉野川の水を讃岐平野に導水する計画を立て、愛媛県庁(当時、讃岐は愛媛県に併合)に願い出ています。

しかし他県を流れる川の水を、県境を越えて取水するなど、平身低頭して懇願しても無理な話でした。このときの上申書の案文が、今も残っています。

降って明治三十八年に、県は京都帝国大学の上野有芳助教授に、吉野川分水計画の実地測量を委託しております。

吉野川では、洪水の度に人が流され田畑が流されてきました。吉野川沿いの農家は、いざという時のため天井に小船を吊り下げて、緊急時に備えるのが精いっぱいでした。記録によりますと、江戸時代の始めから明治にかけての約二百年の間に、およそ百回もの洪水に見舞われています。

そんな徳島県民にとって、他県が吉野川分水を持ち出すたびに、この悲惨な記憶がよみがえるのでした。

かつて愛媛県も吉野川からの分水を計画したこと

があります。吉野川の支流銅山川(伊予川)からの取水です。伊予川は愛媛県内を流れています。つまり愛媛から愛媛への分水です。これは江戸時代からの悲願でした。

その後、明治から大正にかけて、何度も分水が計画されましたが、その都度徳島県の反対で、挫折を繰り返しました。最後に愛媛県は、当時経済安定本部の公共事業課長であった大平正芳氏に訴え、GHQ(連合国軍総司令部)の仲介でやっと実現しました。

徳島県が吉野川の分水に反対する中で、他の三県はそれぞれ、分水の必要性に迫られていました。四県の話し合いは難航を極めました。紆余曲折の末、「吉野川総合開発計画」の必要性が見直され、早明浦ダムの建設を中核とした利水・治水・発電計画が真剣に討議され、敗戦以来二十年に及ぶ四国四県の葛藤に、終止符が打たれました。

こうして香川用水がようやく陽の目をみたわけです。色々「紆余曲折」はありましたが、香川用水の実現にご協力をいただいた高知・徳島県民の皆さんに、心から感謝を申し上げる次第です。



「四国作家」同人

ひら い ただ し  
**平井 忠志**

執筆者プロフィール

1927年 香川県高松市生島町に生まれる  
愛媛県立農林専門学校農業土木科卒業

元香川県農林部開発水利課長・  
土地改良課長等歴任

1995年 第三十回香川菊池寛賞受賞  
小説「花だんす」

【主な著書】

「さぬき水物語」「さぬき 水の歴史考」

「讃岐のため池誌」(共著)

「近世の讃岐」(共著)



阿讃導水トンネルの香川県側(三豊市財田町)で挙行された  
香川用水事業起工式 (昭和43年10月24日)



香川用水幹線水路106kmが全線完成し、本格通水を開始  
(昭和54年6月10日)





早明浦ダム(高知県)



池田ダム(徳島県)



香川用水取水工  
(池田ダム上流部)



東西分水工・香川用水記念公園  
(三豊市財田町)

発行 香川県農政水産部土地改良課  
香川県高松市番町四丁目1番10号  
TEL 087-832-3439  
平成29年4月発行

写真:(独)水資源機構 提供